

おうみネット

Ohmi Net

淡海ネットワークセンター

〒520-0801 大津市におの浜1-1-20
TEL 077-524-8440 FAX 077-524-8442
http://www.biwa.ne.jp/~ohmi-net
E-mail:ohmi-net@mx.biwa.ne.jp

2000.3
号外版



板山きよ美さん(長浜市)
びいめ〜・みずらベンダー

縁あって住むことになった滋賀。仕事と家との往復だけでなく、何か地域ともっと関わりをもちたい、と思ったのがきっかけ。とりあえず自分が面白いと思うこと・気になる場所に出かけてみて、そこでいい仲間と出会えたのが次のステップ。でも、これが数年前で

はうまくいかなかったでしょう。やはり自分の中で「機」が熟したこと、そしておうみネットをはじめとする市民活動の盛り上がり、後押ししてくれたのだと思います。気がついたらあちこちで根をはやして、今はどれが本業なのか自分でもよくわからない感じ。ただ、始めることよりも続けることのほうがはるかにエネルギーが必要。世のため人のため、などと思ったら驕りが出てしまうような気がします。むしろ、活動を通して得られる多くの出会い・気づき・学び。そして共感してくれる人・いっしょにやっぴい仲間が宝物。それらを大切に思う「気持ち」が、続けるエネルギーかもしれませんね。

「機」と「気」



細田昌彦さん(守山市)
豊穰の郷赤野井湾流域協議会

豊穰の郷赤野井湾流域協議会という水環境改善を目標に、その対策や生活のあり方等の提言と実践活動を行う会に1996年9月に加入し、広報と調査研究を行っています。きっかけは、小学生の絵画教室を開催し、湖岸に

スケッチに行った時、子どもたちから「水辺にゴミがいっぱいだね」「とっても汚れているね」という声上がり、野外スケッチに行くたびに、自分の身近な水辺環境の悪化を子どもたちに教えられ、何か水辺環境改善に取り組みたいと考えていたからです。

環境問題を考え、改善に向けての実践となると、手間が掛かったり、不便であったり、お金がかかったりと非常に難しく、どのように住民の方々に推進していったらいいのか頭を悩めています。ただ、言えるのは、20世紀の大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会で環境破壊をしてきた我々が、次世代の子どもたちのために、ライフスタイルを変えていかなければなりません。環境問題を改善する場合、知識や技術ではなく、小さな事でも一人一人の実践活動が必要です。一人の100歩より、100人の1歩が大変重要です。

子どもたちを教えられる、子どもたちのために……

井上ミチコさん(近江八幡市)
てまりの会・はちまん女政ネット

てまりの会、“おうみはちまん女性政策をすすめるネットワーク”(はちまん女政ネット)、“介護保険市民会議”や“女性も議会へバックアップスクール滋賀”の名にどこかで出会われたことがありませんか。私はこれらに参画し充実感をえています。

関心ある事は色々あってもひとりで行動するには心細い、でも、やりたい思いは募る。そこで、趣旨を鮮明にし企画案を提示して、賛同する人この指とまれ形式で面白く活動しています。

例えば、“はちまん女政ネット”で男女平等、高齢社会、介護保険、環境をテーマに北欧、ドイツへ2回に分けて海外先進地研修を自主企画催行しました。友だちの友だちは友だちとし、一企画ごとに完結する形式は気軽に集散できる雰囲気があります。

自主活動で何がどれ程実現できるか、毎日がテストケースだと思いつながらエンパワメントしています。



「賛同する人この指とまれ」で、やりたいことに参画して充実感を。

わたしが 市民活動を 始めた理由

寺尾尚純さん(野洲町)
カワセミ自然の会

10年ほど前から自然のメッセージを伝えることに係わっています。現在は、大津市の



堅田周辺で「カワセミ自然の会」という会が主催する自然観察会に参加しています。活動の原点の一つに、レイチェル・カーソンの『センス・オブ・ワンダー』という本があります。

「大人になるにしたがい、澄み切った洞察力や畏敬すべきものへの直感力を鈍らせてしまいます。誰もが持っていた、神秘さや不思議さに目を見はる感性＝センス・オブ・ワンダーを新鮮に保ち続けるためには、よろこび、感激、神秘などを子どもと一緒に再発見し、感動を分かちあってくれる大人が必要です。自然にふれるという終わりのないよろこびは、すべての人が手に入れられるものなのです」(同本より抜粋)

ふわりとさそわれて かげにただようはなびら／じっともりの
そこでまつ おさない木のめばえ／人のいとなみで おこなわ
れているものと／自然のいとなみでおこなわれていること／
どっちが大切というわけではないけれど／いのちのありかた
を 忘れてしまっているような気がする／自然にいかされ 自然
にかえる／そんなあたりまえのことを 伝えていきたい／

おとなのはじまりは
みんなごども

～ある日の淡海ネットワークセンター～

「こんにちは！」

ピアザ淡海の2F、

壁面がガラス貼りの琵琶湖が

よく見える淡海ネットワークセンターに、2人の女性が訪ねてきました。近所のおじいちゃん、おばあちゃんに自宅を開放して交流しているA子さんとその仲間のB子さんです。



淡海A子さん

交流B子さん



▲「2年前から、近所のおじいちゃん、おばあちゃんとお話したいと自宅を交流の場に提供しています。今は、週に3回、活動に参加したいという仲間とこの場を運営しています。おじいちゃんやおばあちゃんたちと話していると、生活の知恵や人生経験など勉強になることがいっぱいありますが、食事や家事の悩みを打ち明けられたり、訪問してほしいとか言われたりすることもあり、今後、どのように活動をしていけばいいのか悩んでいます。

他にも似たようなことをしているところはありませんか？」

■「センターでは、県内の活動団体について、データベースを作成し、淡海NPOデータファイル(*1)を発行しています。その中で、高齢者問題で活動している団体は71団体あり、A子さんのように宅老を行うグループの他に、各市町村の社会福祉協議会を窓口として介護のボランティアを行うグループ、高齢者の方の外出支援、一人暮らしの方への給食ボランティア、また



■「いろいろな活動されている団体があるんですね。」



■「私たちが給食サービスやヘルパーの派遣も将来的にはしたいと話しています。ところで、『法人』という言葉がでましたが、私たちがなれるんですか？」

■「いわゆるNPO法(裏面「用語集」参照)が成立したことで、非営利の社会貢献活動を行う団体が法人格をもてる(*3)ようになりました。センターでは、法人化について(認証申請の仕方、法人格取得の条件、法人化のメリット…などNPO法全般)の相談も行っています。最近は定款に書き込む団体のミッションなど具体的な相談が増えています。」



■「その前に活動資金を何とかしないと。お茶代などを少しもらっているだけだし…」



■「万一のことを考えて、介護できる人も配置したいし…」

■「その前に活動資金を何とかしないと。お茶代などを少しもらっているだけだし…」

*1 淡海NPOデータファイル

センターに登録されている県内の市民活動団体は648団体あり(2000.1 現在)、その一覧。センター規定の登録用紙(希望者はセンターまで)で無料で登録できる(県内で活動される非営利の市民活動団体に限る)。個々の団体の名称、連絡先、活動内容、目的などを記載。県内の図書館、県事務所等で閲覧できる。一部500円で販売もしている(送料160円)。

*2 情報コーナーの利用

インターネットの利用(30分100円。印刷は1枚10円)や、図書(約800冊)の貸出(一人3冊まで2週間)、新聞記事・雑誌(25誌)の閲覧ができる。

*3 県内の特定非営利活動法人

(13団体・2000.1現在)

しみんふくし滋賀(野洲町)／大津倶楽部(大津市)／明るい社会づくり運動滋賀県協議会(大津市)／NPO子どもネットワークセンター天気村(草津市)／ゆうらいふ(守山市)／ふれあい大津(大津市)／プラの会(大津市)／関西ラオス協会(大津市)／茗荷村(愛東町)／ホームママ(大津市)／サタデーピア(彦根市)／HCCグループ(大津市)／アイアンドユー(草津市)

*4 助成金の情報

(財)助成財団センター発行の「助成団体要覧」などを情報コーナーに設置。トヨタ財団、日本財団、キリン福祉財団など個々の情報をあわせて提供。また情報誌「おうみネット」の伝言板コーナーでも紹介。

参考:(財)助成財団センター(URL: <http://www.jfc.or.jp>)

*5 NPO活動

アドバイザー派遣制度

市民活動を行っている団体またはこれから活動を始めようとするグループに、活動上の様々な悩みに対して答えるアドバイザーを派遣。1団体あたり派遣に要する最初の1回の謝金と交通費をセンターが負担。

※アドバイザー専門分野/登録者 29人(2000.1 現在)

まちづくり・地域づくり・村づくり・組織運営・ミニコミ・広報・事業計画・企業社会貢献・インターネット・ボランティア・ワークショップ・環境・地域文化・地域計画・福祉・芸術文化・国際交流・女性問題・高齢問題・文化政策など。



☑「やはり活動の支援者を増やすことと、サービスを受ける人の適正な負担を考えることが必要ですね。そのためには、自分たちの活動が何の目的で、今、何をしていたり、今後、何をしていきたいのか、お金の面も含めて、外部の人にわかりやすく説明することが必要になってきます。**センターでは、助成金などの情報(*4)も集めています。**在宅老人等の福祉に関しては、(財)太陽生命ひまわり厚生財団、近畿2府4県の高齢者を対象とした福祉活動への資金援助として、(財)大阪ガスグループ福祉財団、社会福祉団体のNPO法人設立に助成する(財)安田火災記念財団など、分野によっていろいろあります。」

☑「最近、いろんな形で参加したい言ってくださる方が増えてきたので、そういった方々を受け入れながら、**どういう会の運営をしようか**と思っています。」



☑「中には、会の**ホームページを作ろう**とか、地域福祉の**勉強会をしよう**とか言う方もおられるんです。」

☑「ホームページについてなら、センターの**アドバイザー(*5)**に相談されてみてはどうでしょう。他にもセンターでは、**市民活動の様々な悩みに専門的に**お応えするアドバイザーの派遣を行っています。活動の分野や課題に応じて講師等の紹介もしています。またNPOについての勉強会はセンター職員がお手伝いしますよ。」



☑「勉強会やイベントをするときに、**チラシ**とかを作って、**広く参加を呼びかけたい**のですが」

☑「**印刷機の貸し出し(*6)**や市民活動団体の**イベントのPR(*7)**の支援、**情報BOX(*8)**を設置して利用者間での情報交換の支援など、様々なサポートを行っています。」

☑「実際にいろんな団体の方に会って、**情報交換できる機会はない**んですか？」



☑「**交流事業として年に1回、県外団体との交流**(平成11年度は福井県)、**おうみ市民活動交流会**(本紙センターインフォメーション参照)を開催し、県内のいろんな事例をもとに活動のノウハウを研修しあっています。また、**淡海ネットワークサロン**を開催して、いろいろな分野で活躍する県内のキーマンをゲストに交流する場もあります。」

☑「こういった活動をしていく上での**マネジメントや世の中の動きなんかを知るには**どうすればいいですか？」



☑「センターでは、市民活動について、県外の実践家を招いたり、ワークショップを取り入れた「**わくわく市民活動ゼミナール**」を開催しています。この講義録は**淡海ネットワークセンターブックレット(*9)**として発行しています。またいろんな活動に取り組む方を対象にした**地域プロデューサーを養成しようとする「おうみ未来塾**(本紙センターインフォメーション参考)」も行って**います。情報コーナー(*2)の図書等もご利用下さい。**」

☑「今後も利用させてもらいたいと思うのですが、**相談などは実際に来ないとダメ**なんですか？**土日**も開いていますか？」



☑「相談は、電話やFAX、Eメールでも受け付けています。月曜日と祝日の翌日は休館ですが、それ以外は、朝の9時から、土日は夕方5時まで、平日は夜の7時まで開いています。**ご都合のいいときにどうぞ!!**(*10)」

*6 ワークコーナーの利用料

印刷機(2台): マスター1枚50円、インク10枚5円(紙の持ち込み必要)、コピー機: 1枚10円(A3/20円)、カラーコピー: 1枚80円(A3/150円)、紙折り機、丁合機、電動パンチ、裁断機、パソコン(印刷とインターネット以外)は無料。※コピー機以外は、市民活動関係の利用に限る

*7 イベントのPR支援

奇数月1日発行の「おうみネット」伝言板への掲載、センターホームページ最新情報への入力、センター掲示板への掲示とパンフレットラックでの配布。

*8 情報BOXの利用

市民活動団体の私書箱。登録団体間によるチラシや会報等を配布し、互いの情報交換に利用。登録は無料。月に2回程度センターにBOX内の印刷物を取りに来る(投入は随時)。遠方の方には月に2回の宅配サービスあり(実費負担: 300円/月×12ヶ月=3600円分切手を添えて申し込む)。106団体が利用(2000. 1現在)

*10 センターのひと月の利用状況など

月平均: (1999. 4月~12月)

・相談件数	13.1件
・情報提供件数	17.1件
・情報・図書コーナー利用者数	237.8人
・インターネット利用者数	4.6人
・ワークコーナー利用件数	68.8件
・交流サロン利用者	228.5人
・センター利用(来室)人数	604.3人

*9 淡海ネットワークセンターブックレット

過去のわくゼミと、設立記念フォーラム、おうみ市民活動交流会の記録をまとめたブックレット。1冊300円(送料160円)

「NO.1 わたしたちが開くこれからの地域社会」「NO.2 市民活動の意義と役割」「NO.3 市民活動促進のための法制度をめぐる議論」「NO.4 これからのNPO経営~おうみ市民活動交流会記録」「NO.5 NPOのための資金獲得術」「NO.6 欧米のNPOの事例に学ぶ」「NO.7 市民・企業・行政のパートナーシップを求めて~第2回おうみ市民活動交流会記録」「NO.8 NPOとボランティアの創造的な関係」「NO.9 NPOと市民社会~介護保険制度を考える~」

NPO関連 用語集

完全保存版



淡海ネットワーク
センター職員が
こたえます

Word 1

アカウンタビリティ (accountability)

アカウンティング(会計)レスポンスビリティ(責任)の合成語で、会計責任とか、行政では説明責任とされています。情報公開法(平11・法42)では「政府の有するその諸活動を国民に説明する責務が全うされるように」と目的条項に情報公開の理念として掲げられました。イミダス2000によると「組織の事業内容や収支について不正がないことを社会に対して情報公開する責任」としています。昨今はもう少し踏み込んで「決定の過程および理由を住民に対して説明する義務、さらにいえば、住民からそのような要求があった場合には応答しなければならない義務」(森田朗編著「アカウンタビリティと自治体職員」)とされています。(田中)

Word 2

アドボカシー (advocacy)

もともとは特定集団の権利を擁護したり、その主張、利益を代弁したり、問題提起する活動のことを指しますが、現代では、一般的に政策提言活動として用いられています。具体的には、その分野の情報の発信やその問題の所在について調査・研究し、そこから提言や対策をまとめ、ロビーイングとよばれる議員に働きかけて法律を成立させるような政治的交渉をおこすとともに、広く市民各層に訴えていくことです。政府や企業とは違うNPOによる課題の発見とそれに基づくアドボカシーは、NPOの重要な役割の一つだと言えます。(福田)

Word 3

NPO (nonprofit (not-for-profit) organization)と NGO (non-governmental organization)

NPOは、直訳すると「非営利組織」「非営利団体」ですが、日本では「民間非営利組織」と訳されています。新しく公共サービスを担う組織として、自ら新しいものを創造し、自己責任において実行できる組織という点で、NPOは、日本NPOセンターの山岡さんが言う“New Public Organization”(新公共組織)とも言えるかもしれません。ここでいう非営利は、収益事業で得た利益を関係者で配分せずに、公益的事業の開催資金に充てるということです。一方、NGOもNPOとほぼ同じ意味ですが、国連から出てきた言葉で「非政府組織」と訳されています。どちらも非営利が前提であり、日本では、主に海外で活動している団体をNGOと呼んでいます。(天川)

Word 4

特定非営利活動促進法 (NPO法)

NPOに関する新聞記事の掲載数は、朝日のみでも95年63件、96年136件、97年212件、98年442件となっています。(中村陽一著「日本のNPO2000」)98年がピークになっているのは3月にNPO法が制定され、12月から施行されたことに依るものと考えられます。NPO法は、ボランティアを含むいわゆる市民活動の持続的な発展を期すための仕組みの一つとして、これらの団体が簡易に法人化ができる方途を定めたものです。施行から1年余りを経た現在、県内でも13団体が新たに認証を受けて活動を開始しています。施行から2年以内に見直しの検討をし、結論を得るとしていることから税制を含めた議論が活発になってきました。(田中)

Word 5

ネットワーキング (networking)

たんぼぼの家の播磨靖夫さんは、その著書「知縁社会のネットワーキング」の中で、一般的なネットワークとネットワーキングをはっきりと区別しています。

「一般的なネットワークというのは、放送網、通信網、鉄道網といった社会基盤としてのネットワークである。こうした、いわゆるハードなネットワークではなくて、共通の価値観や目的意識のもとで人と人がつながる、いわゆるソフトなネットワークづくりをネットワーキングと呼んでいる。問題を提起し、その解決策を、主として今までの体制の外に求めるような人たちによって自発的に形づくられるネットワークづくりである」と書いています。ネットワーキングの基本は、「フェイス・トゥ・フェイス」「フットワーク」「異業種・異分野」です。特に、市民活動におけるネットワーキングには、地域を越え、活動分野を越え、立場を越えという姿勢が大切です。(阿部)

Word 6

企業フィランソロピー (philanthropy)

フィランソロピーは、ギリシア語の「フィロ(愛する)」と「アントロポス(人間)」に由来する英語で、やさしい人間愛に溢れる社会をつくらうという願いのもとに、社会のために寄付を行ったり、ボランティア活動を行うことを言います。企業フィランソロピーの担い手である企業は、芸術文化、社会福祉、環境保全、地域社会、国際交流など幅広い分野で、企業独自の社会貢献プログラムを実施したり、NPOなどの民間公益活動に資金の寄付や、人材、ノウハウなどを供給します。県内の企業においても、6割以上が地域社会、社会福祉、環境保全、災害等の社会貢献活動を実施されています。(杉本)